

近江の地酒についてのアンケート結果

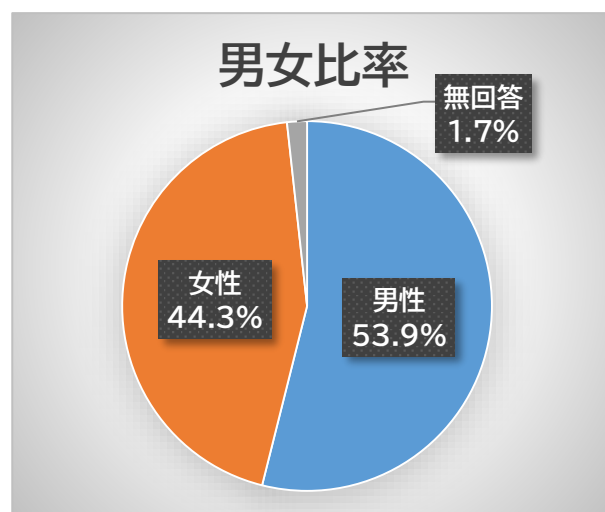
本県では平成 28 年 3 月に「近江の地酒でもてなし、その普及を促進する条例」が施行されました。地酒にはその地域の自然、歴史、伝統が詰まっており、地酒の普及を促進することが郷土愛を育み、ひいては交流人口の増加、地域活性化につながるものと考えています。また、令和4年度に酒造組合で GI「滋賀」(清酒)指定を受けたことを契機とし、県内の近江の地酒に関する認知度等を図ることを目的としてアンケートを実施しました。

- ★調査時期: 令和4年9月
- ★対象者: 県政モニター294 人
- ★回答数: 230 人 (回収率 78. 2%)
- ★担当課: 商工観光労働部 観光振興局

【属性】

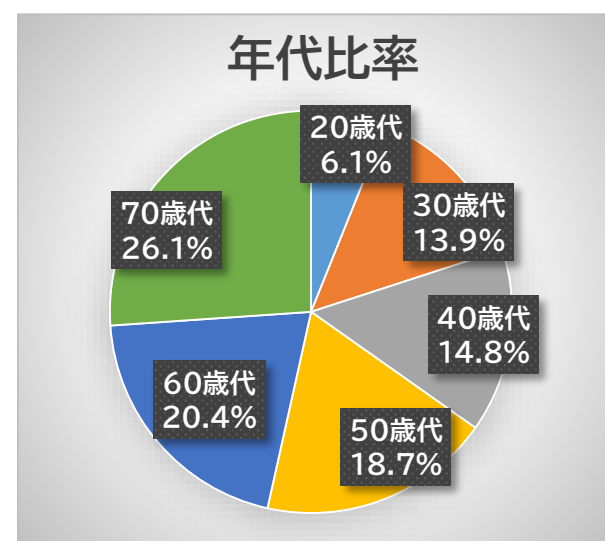
◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	124	53.9
女性	102	44.3
無回答	4	1.7
合計	230	100



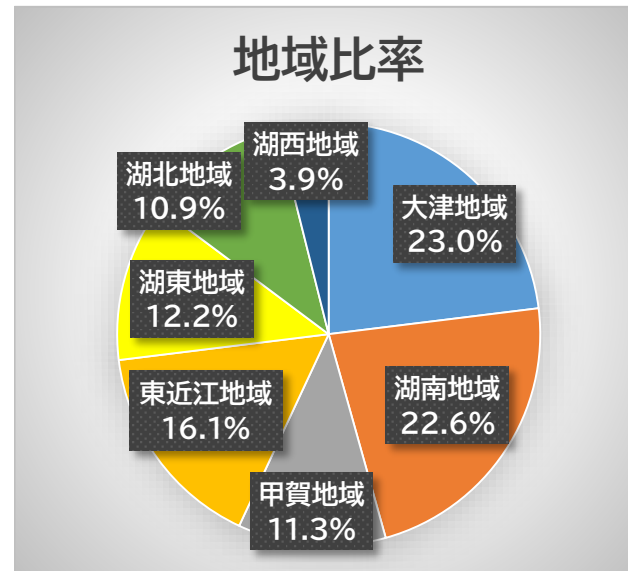
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	14	6.1
30歳代	32	13.9
40歳代	34	14.8
50歳代	43	18.7
60歳代	47	20.4
70歳以上	60	26.1
合計	230	100



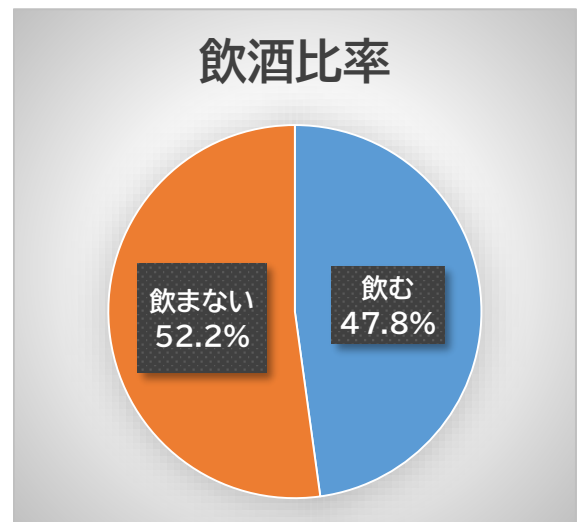
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	53	23.0
湖南地域	52	22.6
甲賀地域	26	11.3
東近江地域	37	16.1
湖東地域	28	12.2
湖北地域	25	10.9
湖西地域	9	3.9
合計	230	100



問1 あなたは日本酒を飲みますか。n=230

項目	人数(人)	割合(%)
飲む	110	47.8
飲まない	120	52.2
合計	230	100

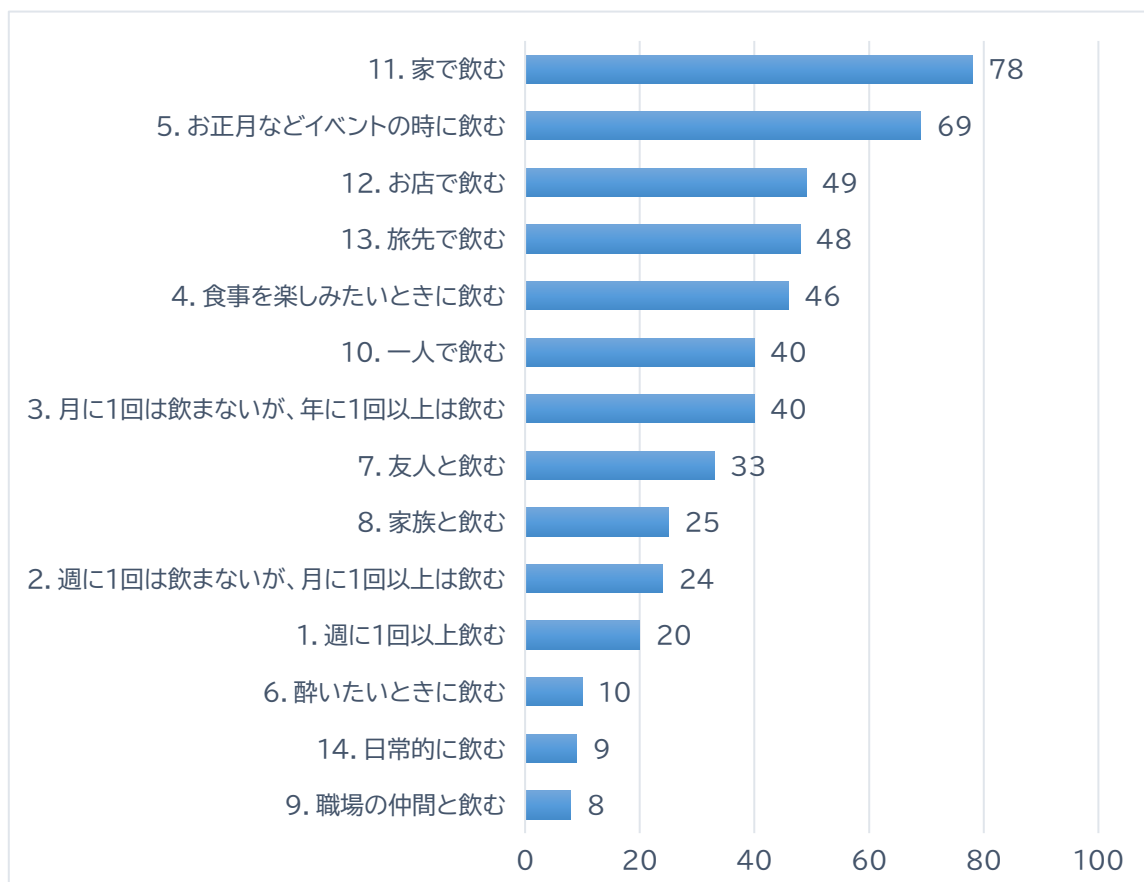


問2 あなたは普段から日本酒とどのように接していますか。

(回答チェックはいくつでも **n=110**)

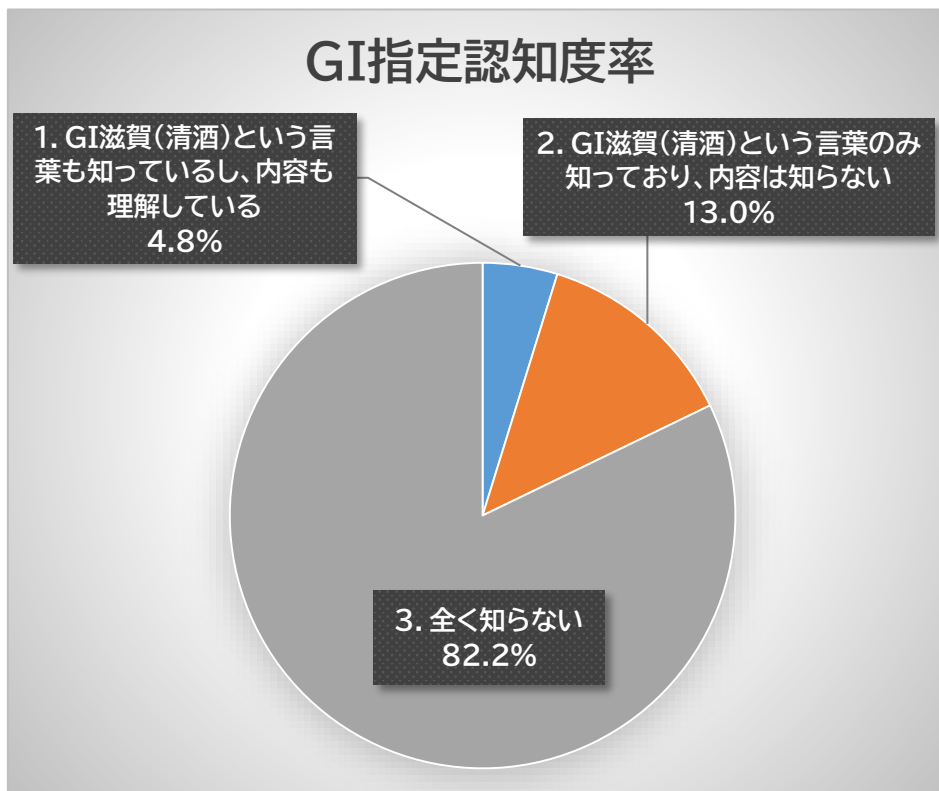
(※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 週に1回以上飲む	20	18.2
2. 週に1回は飲まないが、月に1回以上は飲む	24	21.8
3. 月に1回は飲まないが、年に1回以上は飲む	40	36.4
4. 食事を楽しみたいときに飲む	46	41.8
5. お正月などイベントの時に飲む	69	62.7
6. 酔いたいときに飲む	10	9.1
7. 友人と飲む	33	30.0
8. 家族と飲む	25	22.7
9. 職場の仲間と飲む	8	7.3
10. 一人で飲む	40	36.4
11. 家で飲む	78	70.9
12. お店で飲む	49	44.5
13. 旅先で飲む	48	43.6
14. 日常的に飲む	9	8.2



問3 あなたは令和4年4月 13 日(水)に指定された GI「滋賀」(清酒)をご存知ですか。
n=230

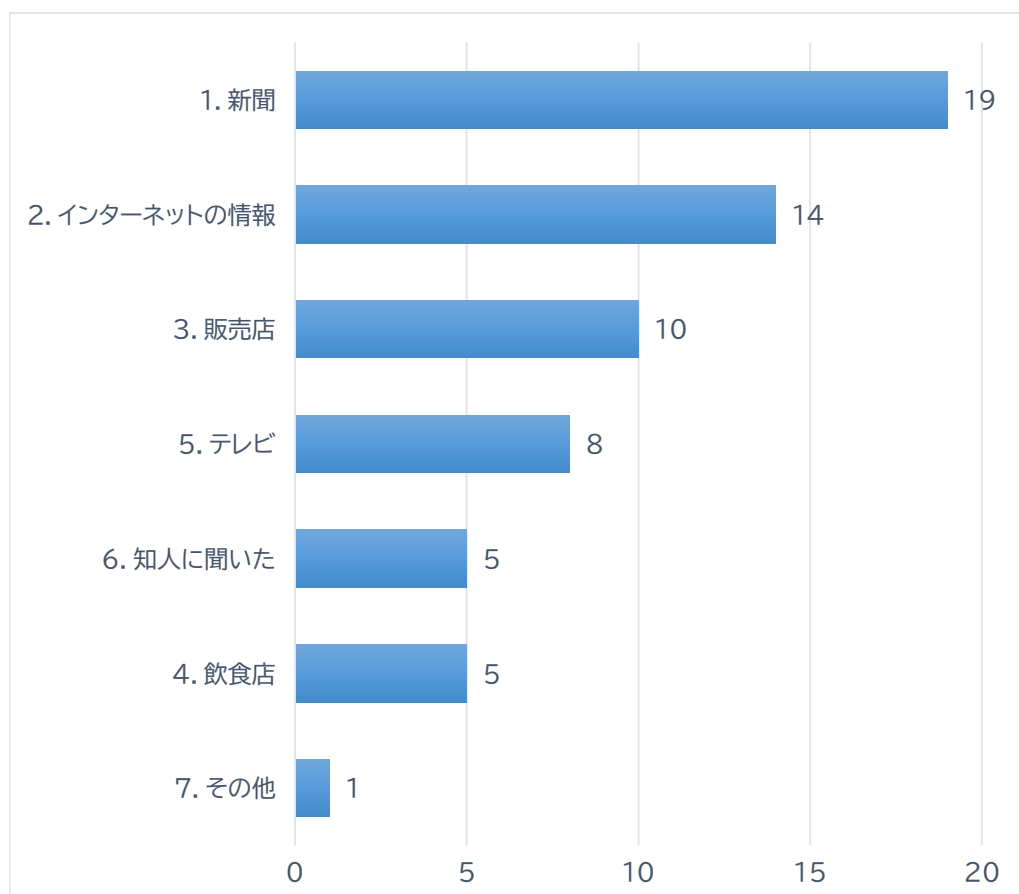
項 目	人数(人)	割合(%)
1. GI 滋賀(清酒)という言葉も知っているし、 内容も理解している	11	4.8
2. GI 滋賀(清酒)という言葉のみ知っており、 内容は知らない	30	13.0
3. 全く知らない	189	82.2
合計	230	100



問4 問3で1・2 と回答した方にお聞きします。GI「滋賀」(清酒)をどこで知りましたか。

(回答チェックはいくつでも n=40)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 新聞	19	47.5
2. インターネットの情報	14	35.0
3. 販売店	10	25.0
4. 飲食店	5	12.5
5. テレビ	8	20.0
6. 知人に聞いた	5	12.5
7. その他	1	2.5

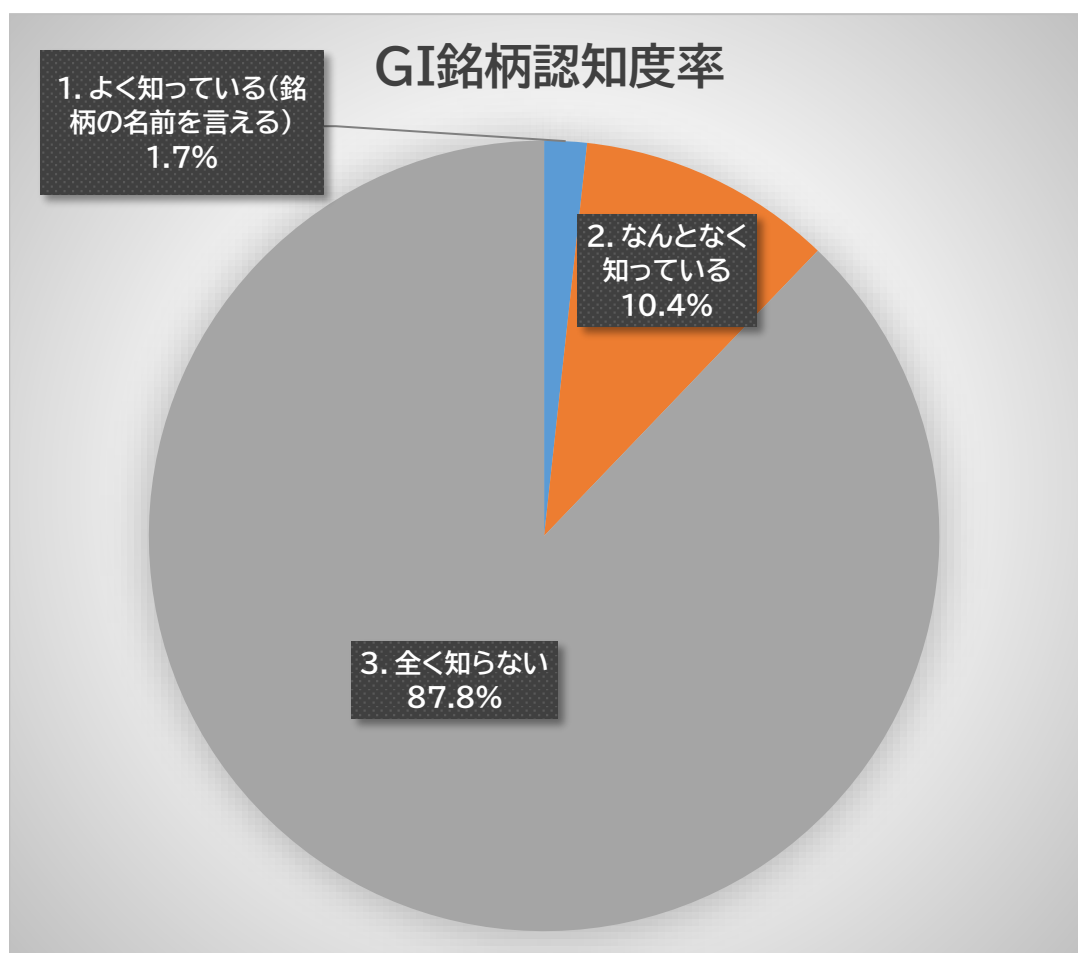


7. その他記述欄

・アルコール依存症、飲酒運転等悪いイメージが強い。

問5 あなたは今年度指定された GI「滋賀」(清酒)の銘柄をご存知ですか。n=230

項目	人数(人)	割合(%)
1. よく知っている(銘柄の名前を言える)	4	1.7
2. なんとなく知っている	24	10.4
3. 全く知らない	202	87.8
合計	230	100

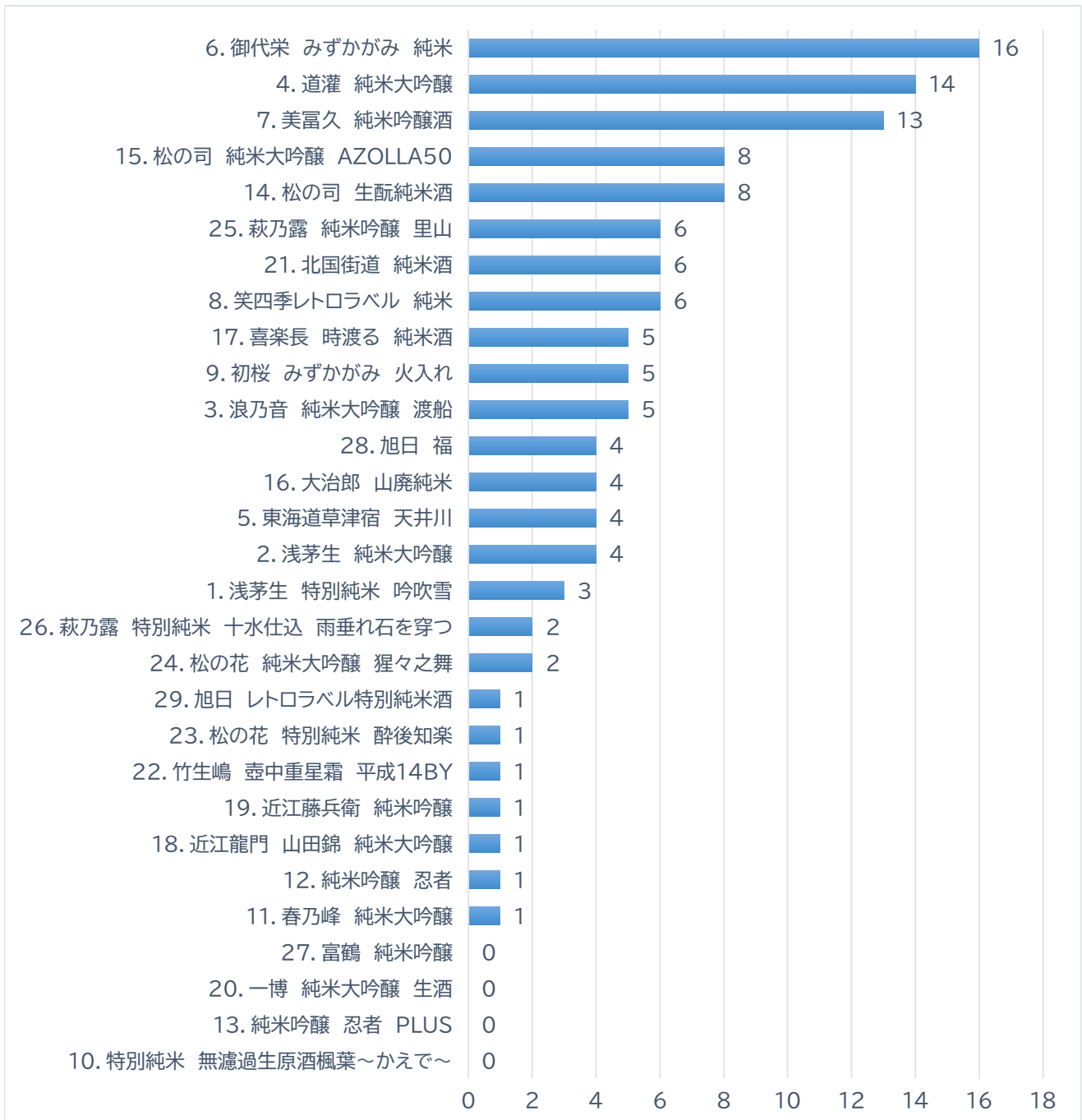


問6 問5で 1.2 と回答した方にお聞きします。指定されている銘柄は以下の通りです。

名称を知っている、飲んだことはあるなどご存知の銘柄を選んでください。

(回答チェックはいくつでも **n=40**)

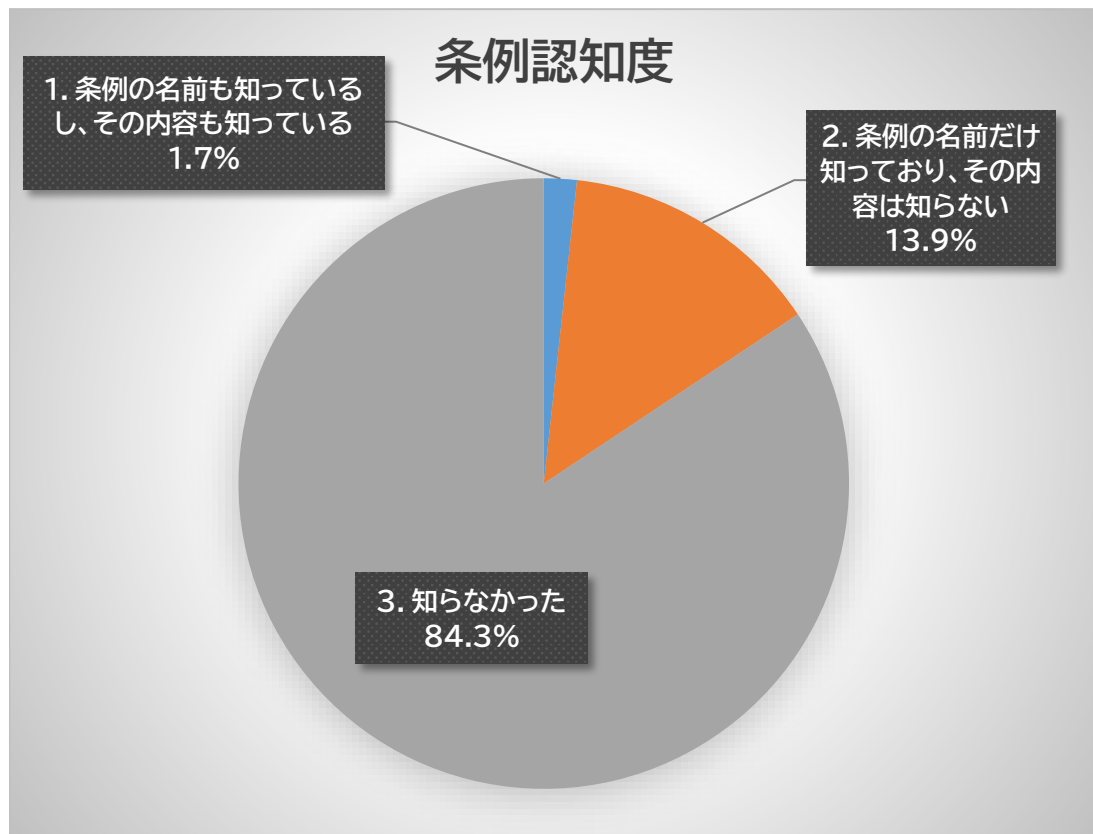
項 目	人数(人)	割合(%)
1. 浅茅生 特別純米 吟吹雪	3	7.5
2. 浅茅生 純米大吟醸	4	10.0
3. 浪乃音 純米大吟醸 渡船	5	12.5
4. 道灌 純米大吟醸	14	35.0
5. 東海道草津宿 天井川	4	10.0
6. 御代栄 みずかがみ 純米	16	40.0
7. 美富久 純米吟醸酒	13	32.5
8. 笑四季レトロラベル 純米	6	15.0
9. 初桜 みずかがみ 火入れ	5	12.5
10. 特別純米 無濾過生原酒楓葉～かえで～	0	0.0
11. 春乃峰 純米大吟醸	1	2.5
12. 純米吟醸 忍者	1	2.5
13. 純米吟醸 忍者 PLUS	0	0.0
14. 松の司 生酏純米酒	8	20.0
15. 松の司 純米大吟醸 AZOLLA50	8	20.0
16. 大治郎 山麩純米	4	10.0
17. 喜楽長 時渡る 純米酒	5	12.5
18. 近江龍門 山田錦 純米大吟醸	1	2.5
19. 近江藤兵衛 純米吟醸	1	2.5
20. 一博 純米大吟醸 生酒	0	0.0
21. 北国街道 純米酒	6	15.0
22. 竹生嶋 壺中重星霜 平成 14BY	1	2.5
23. 松の花 特別純米 酔後知楽	1	2.5
24. 松の花 純米大吟醸 狸々之舞	2	5.0
25. 萩乃露 純米吟醸 里山	6	15.0
26. 萩乃露 特別純米 十水仕込 雨垂れ石を穿つ	2	5.0
27. 富鶴 純米吟醸	0	0.0
28. 旭日 福	4	10.0
29. 旭日 レトロラベル特別純米酒	1	2.5



問7 あなたは「近江の地酒でもてなし、その普及を促進する条例」をご存知ですか。

n=230

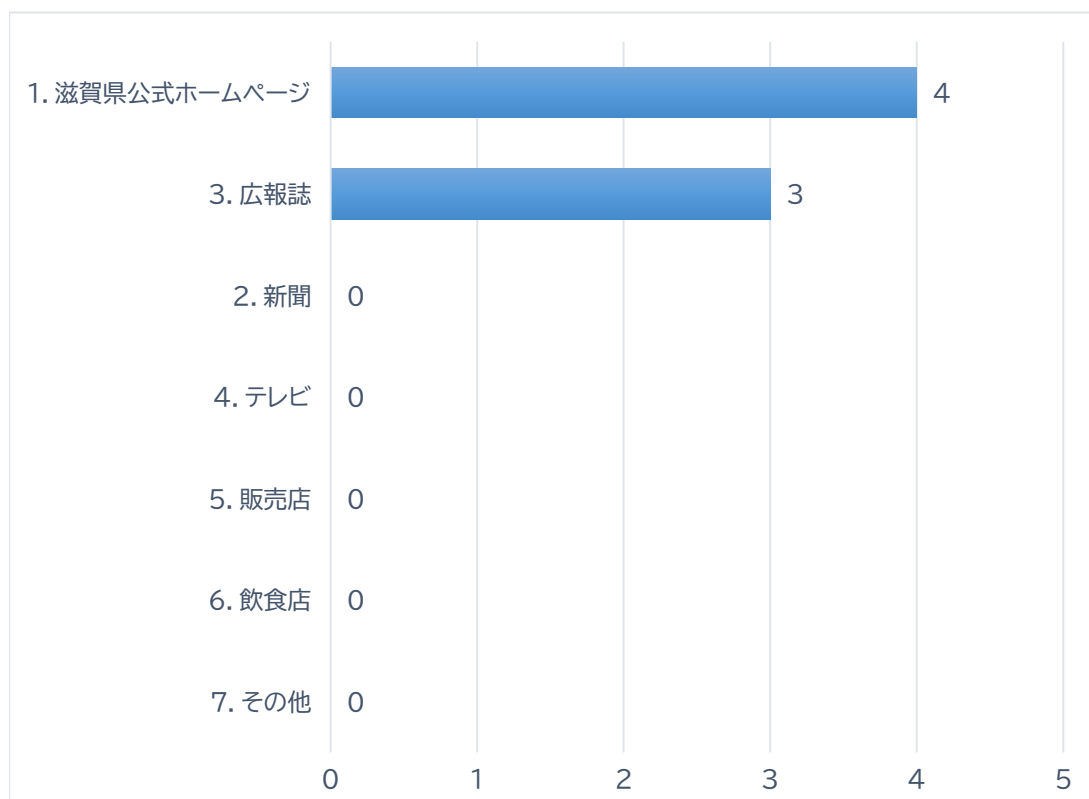
項目	人数(人)	割合(%)
1. 条例の名前も知っているし、その内容も知っている	4	1.7
2. 条例の名前だけ知っており、その内容は知らない	32	13.9
3. 知らなかった	194	84.3
合計	230	100



問8 問7で1と回答した方にお聞きします。どこで知りましたか。

(回答チェックはいくつでも n=4)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 滋賀県公式ホームページ	4	100.0
2. 新聞	0	0.0
3. 広報誌	3	75.0
4. テレビ	0	0.0
5. 販売店	0	0.0
6. 飲食店	0	0.0
7. その他	0	0.0



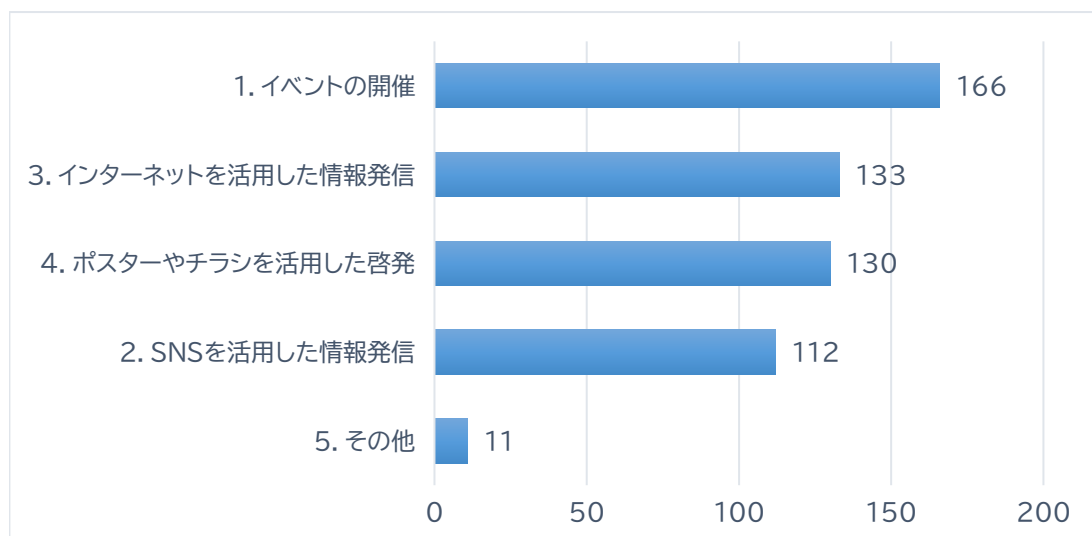
7. その他記述欄

・記載事項無し

問9 あなたが条例を幅広く周知するために効果的だと思う方法を選んでください。

(回答チェックはいくつでも n=230)

項目	人数(人)	割合(%)
1. イベントの開催	166	72.2
2. SNS を活用した情報発信	112	48.7
3. インターネットを活用した情報発信	133	57.8
4. ポスターやチラシを活用した啓発	130	56.5
5. その他	11	4.8



5. その他記述欄

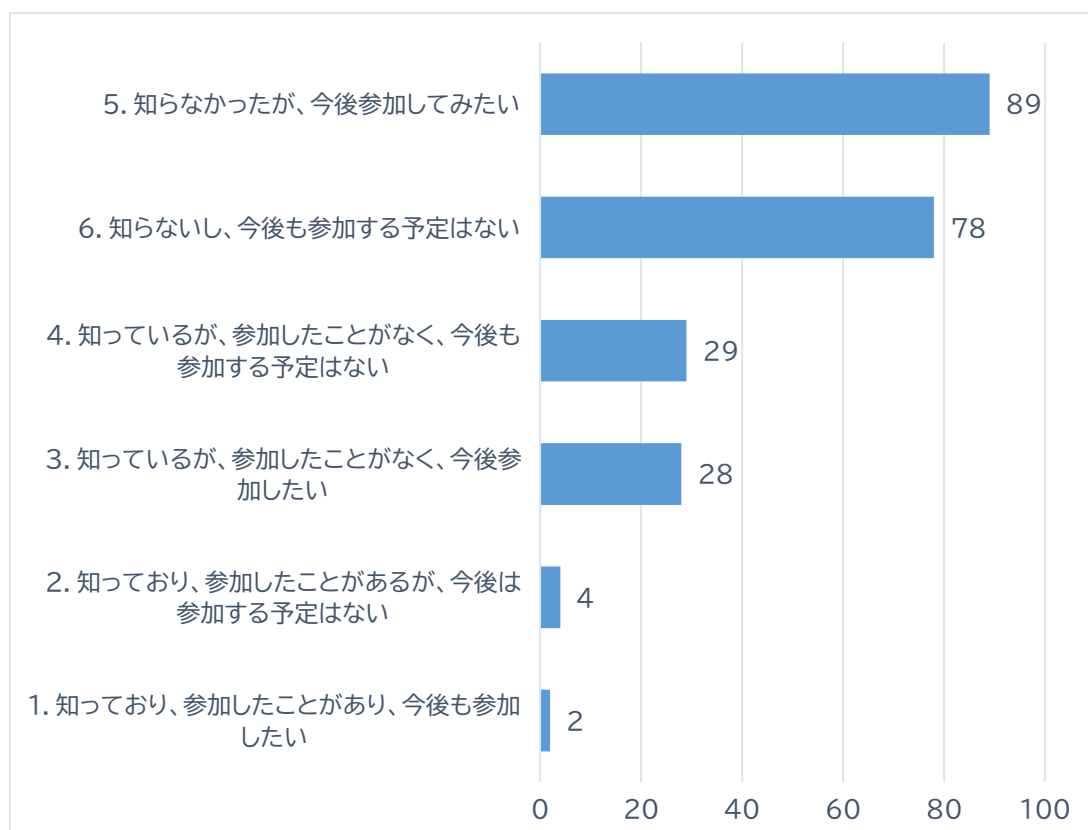
- ・日本酒を楽しめる店が少なくなった。行く機会も減った。
- ・すくなくとも主要駅の告知看板に掲載すべき。
- ・今日、手土産に滋賀の地酒を買いましたがこのような条例があるのは知りませんでした。
- ・蔵元さん独自に生の声をもっと配信されては。
- ・県として周知しようとするなら、自治会を通じた回覧も有効と考える。
- ・地域の祭事等のイベントを活用する。
- ・自分がお酒を飲まないの、広める方法が分からない。
- ・酒蔵祭りの再開。
- ・コロナ前はあったけど、最近は自粛ムードで開催されない。
- ・浪の音、萩の露など嗜んでおりますが、本件はまったく存じませんでした。
- ・コロナ禍で認知が難しいので、スーパーにコーナーを設置する？
- ・地元局(NHK やびわ湖)のテレビで放送。
- ・居酒屋等の箸袋等にその旨印刷する補助金を設ける。
- ・飲食店や宿泊施設で、地酒をセットにしたメニューを展開してもらう。
- ・GI の TV 宣伝活動をすべき。
- ・政財官界への PR と各地の滋賀県アンテナショップの活用。
- ・新聞・ニュース、チラシ、回覧、県・市広報紙。
- ・自治会行事での振る舞い酒。
- ・お酒は飲まない飲めないのあまり関心を持っておらずわかりませんでした。

問10 おもてなし文化の醸成を促進するための協議会が設立されています。協議会として取り組むべきことは何だと思いますか。(一部抜粋)

- ・おもてなし文化を多くの方に知ってもらうことが大事だと思います。市町村だけではなく協議会が自治会まで踏み込んだ取り組みが必要だと思います。
- ・日本酒を PR するうえで、美味しさだけでなく日本酒を飲むメリット(医学上など)を PR すべき。
- ・参加しやすさを考えたい。
- ・不勉強なんだろうけれど、そのような協議会があること自体を知らなかった。
- ・県民の生活に取り入れることだと思います。
- ・広く認知するためにもっとアピールすべき。お酒をのまない人にも、興味をもってもらえるように、一般企業とのコラボや行政との連携が必要だと思う。
- ・自分がお酒を飲まないの、近江の地酒の県内消費率が低いということがとても意外でした。私自身できるだけ地元のお野菜を買いたいと思い実践しているので、お酒を飲む方々がそうならない理由は何かということがとても気になります。今一度、お酒が好きな方々にアンケートを取るなどして研究してみたいです。
大津駅前新酒が出る頃にマルシェやキッチンカーなどが出店し、お酒の飲み比べセットなどが販売されている催しがありました。
あのようなイベントはとても良いと思うし、そこに集まった方々にいかに継続して地酒を好んで飲んでいただくかそこに繋げていく仕組みなど検討して頂きたいです。
- ・これまであまり馴染みのなかった世代にも興味を持てるような優しくてのみ心地のいいものを紹介する。
- ・酒蔵の一般公開イベントなどを通して、まずは広く県民に地元のお酒をもっと PR すること。県民を巻き込まないで全国展開は厳しい。
- ・「近江の地酒でおもてなし」の意味が不明である。もっと率直に近江の地酒の拡販をみんなで考えるなどしたら、意味が明瞭になる。協議会設立のときの名づけを顧みれば、取り組むべき課題が見えてくるのではないのでしょうか。
- ・地産地消をもっともっと普及させていくために、「おもてなし文化の醸成を促進するための協議会」を通じて、色々な行事開催や情報発信をどんどん行ってほしい。
- ・最近の若者は、あまり日本酒を呑まない傾向にあると思う。酒は百薬の長として、健康嗜好品としての効果をアピールすることが望まれる。しかし、新型ウィルスで人とひとの集まりやコミュニケーションが取りにくい社会となり、若者に対し、もっと酒が生活に身近なものとなるような新たな戦略を検討すべきだと思う。
- ・滋賀県で有名な信楽焼を見るため訪れた人に、信楽焼を使って飲んでもらえるよう滋賀のお酒を信楽で紹介してもらうなど、滋賀に観光に来た人が滋賀のお酒に触れる機会を増やす。日本にはたくさんのお酒があるので、とにかく知ってもらって味見してもらって買ってもらうことが大切かと思います。
- ・老若男女に興味の持てるおもてなし文化の開発。周知が足りない。以下 PR 方法について。SNS も滋賀県からの通知を ON しない限りは見ない。強制的に PR する方法としては、自宅へのチラシ、内容を記載した広報を全世帯へ配る、職場や学校への売り込みなど。

問11 あなたは地酒普及促進月間である 10 月に開催している「滋賀地酒 10,000 人乾杯プロジェクト」についてご存知ですか。また、今後参加したいと思いますか。**n=230**

項 目	人数(人)	割合(%)
1. 知っており、参加したことがあり、今後も参加したい	2	0.9
2. 知っており、参加したことがあるが、今後は参加する予定はない	4	1.7
3. 知っているが、参加したことがなく、今後参加したい	28	12.2
4. 知っているが、参加したことがなく、今後も参加する予定はない	29	12.6
5. 知らなかったが、今後参加してみたい	89	38.7
6. 知らないし、今後も参加する予定はない	78	33.9
合計	230	100



問 12 問 11 の理由をお聞かせください。(各項目一部抜粋)

1. 知っており、参加したことがあり、今後も参加したい

特記事項無し

2. 知っており、参加したことがあるが、今後は参加する予定はない

- ・同時に 10,000 人でもよいと思うが日程的な都合で参加できない方もいると思うので開催日を何日かに分けて累計でのプロジェクトとしてはどうか。
- ・あまり飲まなくなったので

3. 知っているが、参加したことがなく、今後参加したい

- ・実施は新聞で知った。
- ・お酒は飲まない。だけど、応援してもいいと思う。ただ、飲む人ばかりの注目が集まるようだったら、いかがだと思ふ。
- ・ずっと日本酒が好きで、ここ近江に暮らしているからこそ味わえる機会に触れたい。
- ・参加したい気持ちはあるが、行くことがなんとなく億劫になる。身近なところでの開催がいい。
- ・地元のものを楽しんで飲みながら応援していきたいと思ふ。イベント情報にタイムリーにアクセスできていないのもっと発信方法を考えてもいただきたいです。

4. 知っているが、参加したことがなく、今後も参加する予定はない

- ・酒が飲めない。特に最近の若者は酒が飲めない人が多い。
- ・彦根市内で開催されるなら、行っても良いが、たいていは大津市や関連地で開催されるので、余り気が進まない。
- ・身近な場所で開催されているのかも知らないため。
- ・私はアルコールが過敏に反応するため飲酒を控えています。お酒が飲める人だけが参加するイベントを税金で開催することに不公平感を感じます。地産品を楽しむことは、年代を超えて参加できることが必要ではないでしょうか？ 枠組みの拡大を望みます。

5. 知らなかったが、今後参加してみたい

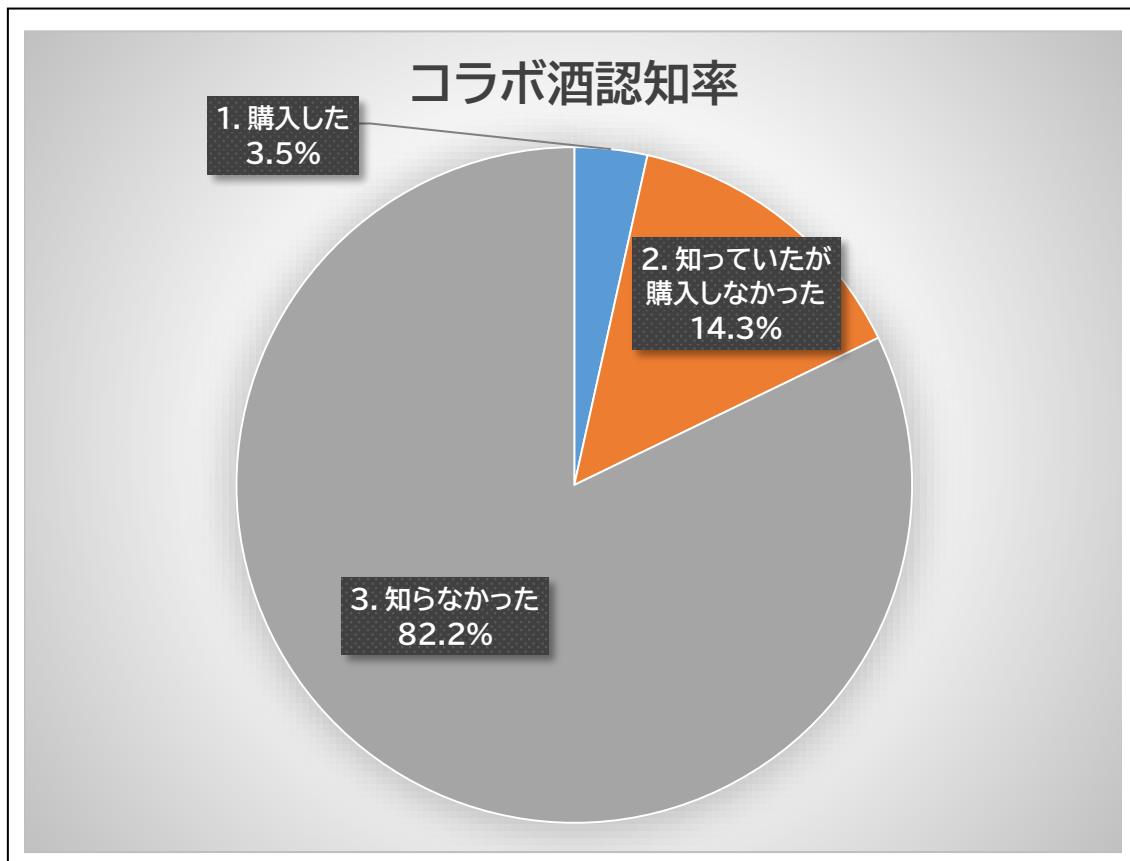
- ・滋賀の良いところを上手く楽しみたい。
- ・日本酒を理解し、楽しめそうだから。
- ・参加の条件としてノンアルコール日本酒が多く蔵元で開発され、どのような方も興味をもてる内容になること。

6. 知らないし、今後も参加する予定はない

- ・酒を飲まないため。
- ・飲めない人にも何か配慮してもらえるといいなと思ふ。例えばお酒はダメだけど、副産物でできる粕汁やスイーツの紹介、試食など。

問 13 あなたは「滋賀地酒 10,000 人乾杯プロジェクト」のために2年前から店舗販売しているブレンド酒「滋賀 32 蔵オリジナルブレンド酒」についてご存知ですか。n=230

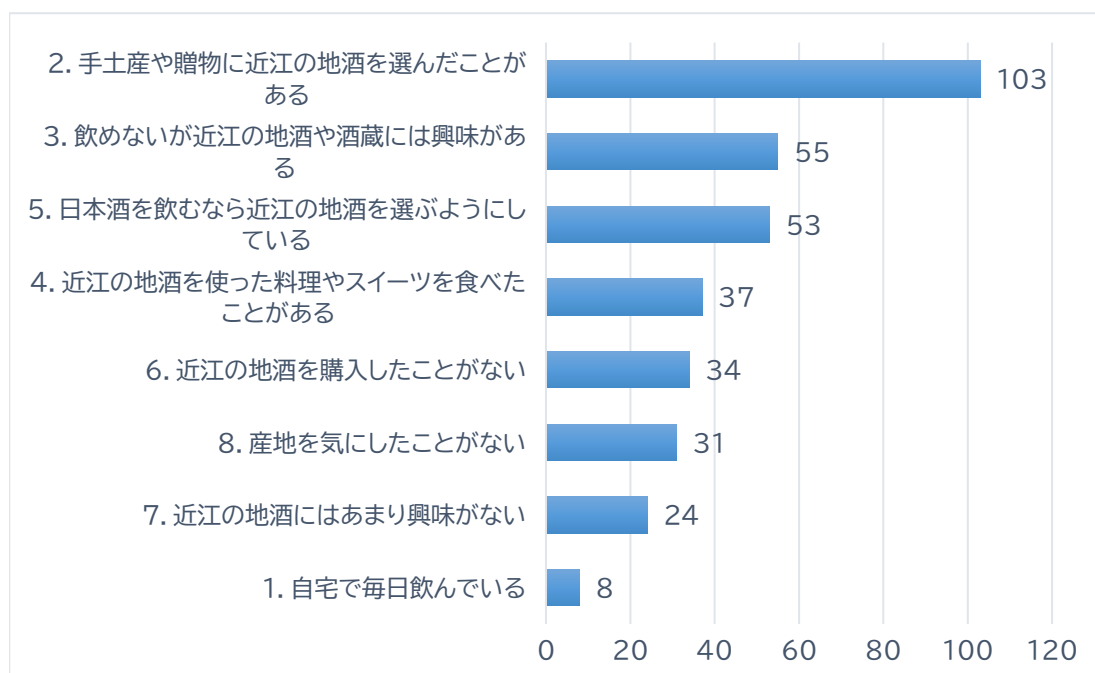
項 目	人数(人)	割合(%)
1. 購入した	8	3.5
2. 知っていたが購入しなかった	33	14.3
3. 知らなかった	189	82.2
合計	230	100



問 14 あなたは普段から近江の地酒にどのように接しておられますか。

(回答チェックはいくつでも n=230)

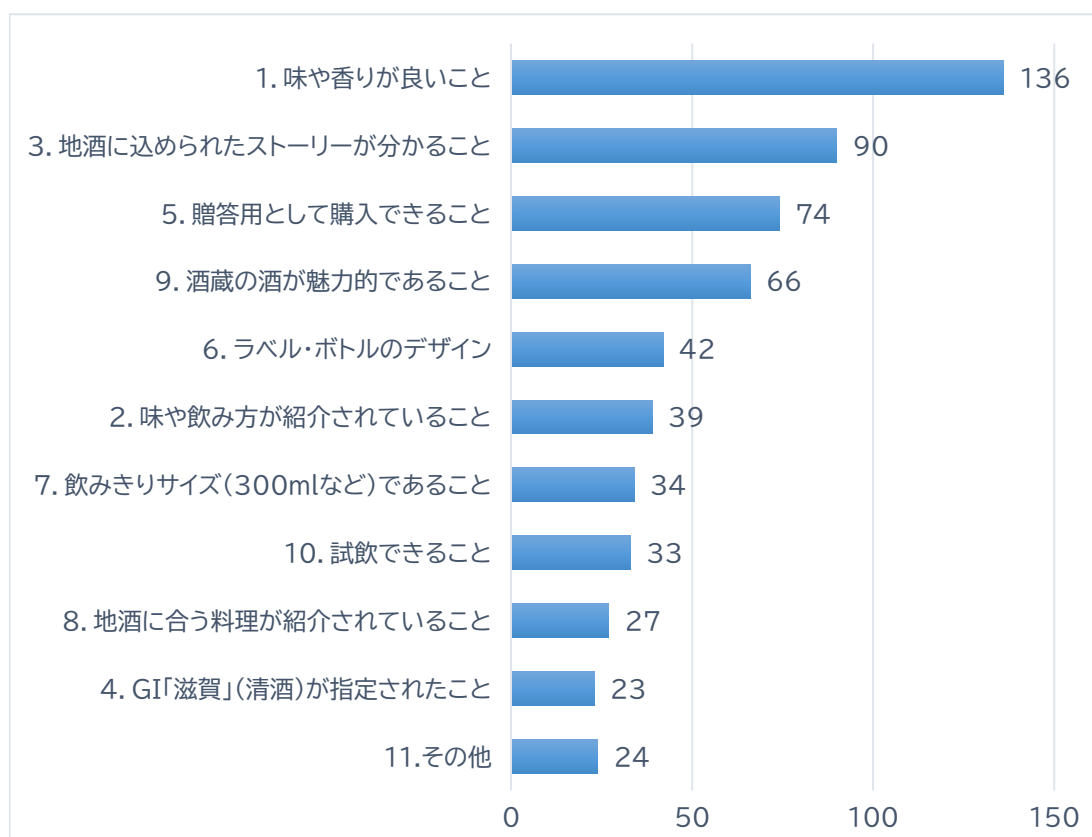
項 目	人数(人)	割合(%)
1. 自宅で毎日飲んでいる	8	3.5
2. 手土産や贈物に近江の地酒を選んだことがある	103	44.8
3. 飲めないが近江の地酒や酒蔵には興味がある	55	23.9
4. 近江の地酒を使った料理やスイーツを食べたことがある	37	16.1
5. 日本酒を飲むなら近江の地酒を選ぶようにしている	53	23.0
6. 近江の地酒を購入したことがない	34	14.8
7. 近江の地酒にはあまり興味がない	24	10.4
8. 産地を気にしたことがない	31	13.5



問 15 あなたが近江の地酒を購入する決め手は何だと思えますか。

(回答チェックはいくつでも n=230)

項 目	人数(人)	割合(%)
1. 味や香りが良いこと	136	59.1
2. 味や飲み方が紹介されていること	39	17.0
3. 地酒に込められたストーリーが分かること	90	39.1
4. GI「滋賀」(清酒)が指定されたこと	23	10.0
5. 贈答用として購入できること	74	32.2
6. ラベル・ボトルのデザイン	42	18.3
7. 飲みきりサイズ(300ml など)であること	34	14.8
8. 地酒に合う料理が紹介されていること	27	11.7
9. 酒蔵の酒が魅力的であること	66	28.7
10. 試飲できること	33	14.3
11.その他	24	10.4



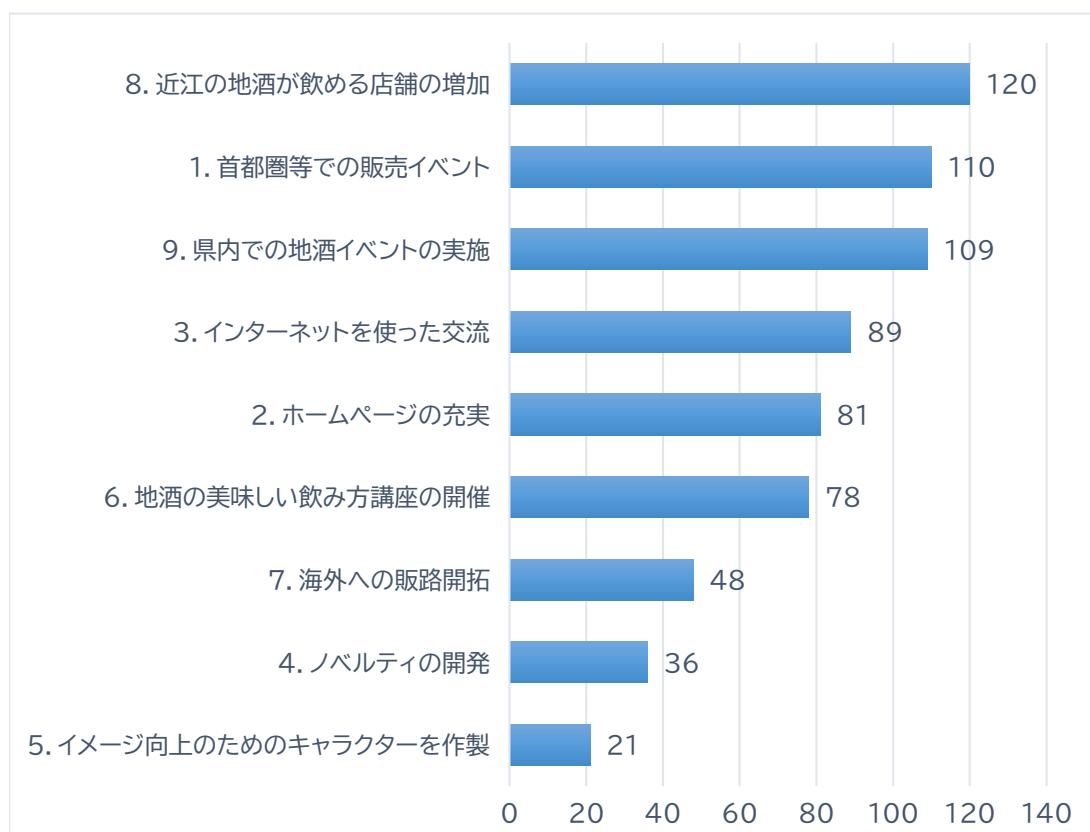
11. その他記述欄

- ・地元の酒屋にあること。
- ・どこの蔵元でも試飲出来るのですか出来ない蔵元もただあるから残念です
- ・松の司は以前からよく知っていて、贈答用に利用している。
- ・地酒にこだわらない。うまい酒を飲む。
- ・他商品との突出した差別化と商品開発。特徴を積極的に PR すること。
- ・地酒で美味しいお酒は、献酒や贈答にしている。
- ・価格。
- ・見た目が大事。スーパードライがヒットしたように、ラベルに惹きつけるものが必要。
- ・関心がないので回答できない。(1~10 にあてはまらない)その他の欄がほしい。
- ・海外の人へのお土産。
- ・手頃な価格であること。
- ・安心安全な原料を使用していることが最も大切。無農薬無化学肥料のお米など。
- ・問 15 は飲酒しないので堪えようがない。
- ・自分の好みの味であること(辛口)
- ・コスパがよいこと
- ・飲まない人の選択肢も用意してください
- ・知名度を上げてください。『たねや』は全国に知られ使い易く、贈答用にしています。
- ・地元だから。
- ・利き酒で味や香りが手軽に確認できると購入のきっかけになる。
- ・GI の試飲をしたい。
- ・七本槍などのネーミングを含め個性的な酒が多い。
- ・購入促進は、ニュース性・美酒啓発・価格帯。身近な店で買えること。
- ・滋賀の地酒が一番口に合う。甘みも辛みもあり、芳醇。仕込み水も美味しい。

問 16 あなたは近江の地酒ファンを増やす取組みとして何が有効だと思いますか。

(回答チェックはいくつでも n=230)

項 目	人数(人)	割合(%)
1. 首都圏等での販売イベント	110	47.8
2. ホームページの充実	81	35.2
3. インターネットを使った交流	89	38.7
4. ノベルティの開発	36	15.7
5. イメージ向上のためのキャラクターを作製	21	9.1
6. 地酒の美味しい飲み方講座の開催	78	33.9
7. 海外への販路開拓	48	20.9
8. 近江の地酒が飲める店舗の増加	120	52.2
9. 県内での地酒イベントの実施	109	47.4



問 17 その他、近江の地酒の普及促進についてご意見がありましたらお聞かせください。(一部抜粋)

- ・他県に比べてお安く飲めると嬉しい。県民がお得になると有り難い。
- ・いろいろとおいしい酒があるのに、あまり知られていないのが残念である。
近江米の「みずかがみ」のように代表的な名前を地酒全部に共通的につけて、名前だけで滋賀の地酒とわかるようにすれば、購入時もわかりやすいし、イベントなどでその名前を周知すれば広報もやりやすいのではないか。
- ・どの世代にも受け入れられる軽い飲み心地のもの、こだわりの日本酒党に求められるものなど、広く日本酒を試せる種類を増やす。
- ・SNS を使ったイメージ戦略や海外への販路開拓が必要ではないかと思います。
瀬祭、など全くお酒を飲まない私自身も現地の人からよく名前を聞いたり、買ってきて欲しいと頼まれたりしていた、海外でも非常に知名度の高いお酒もあります。以前、暮らしていたマレーシアやアメリカでも日本酒のファンは多く、銘柄にも詳しい方は多かったです。SNS で、滋賀の地酒がおしゃれだ、美味しいとなると、一気に知名度が上がるのではと思います。
- ・もうされているのかもしれませんが全国各地のフードフェスなどへの出店をして認知度をもっとあげる。また、日本酒を飲めない方でも楽しめるようなスイーツ等の開発をして少しでもたくさんの方に近江の地酒に触れてもらう機会を増やせればと思う。
- ・蔵元さんは当然こだわりを持って酒米を指定されてますよね。私達米農家としては地元の酒蔵さんは地元の米を使って欲しいがそうは行かない複数年契約をされているから変えられない、本当にしっかりと作ってもらえるか心配だから頼めない、修行させてもらった蔵元が推薦した農家が安心、なんて事で他産地の酒米を使われているから地元では余り人気が出ないと思う。信用してもらったら当然徒歩で買いに行ける地酒は良いと思うけど。
- ・酒蔵巡りのスタンプラリーや地酒を扱う店舗のスタンプラリーなど、景品がもらえるイベントがあれば楽しい。
- ・私のように普段日本酒を飲まない人にも関心をもってもらえるように、ウェブサイトや SNS を利用した積極広報活動をしましょう。その中で銘柄紹介やあわせる料理の紹介、購入できる店舗やウェブショップの案内をしましょう。まずは関心をもってもらうきっかけを作るのが普及の第一歩だと思います。
- ・県産酒の普及のため、「近江の地酒」の良さを、色々な媒体を通じて情報発信して欲しい。
- ・鮎ずし、びわ鱒など地元食材との相性の良さを説明するストーリーが必要だと思う。鯖街道など近江を通じて運ばれる食材と、その沿道にある地酒との関わりの物語を発掘しては？
- ・酒は冠婚葬祭に関連した行事で飲む機会が多いと思う。地酒の普及には、まず県下各地の祭りイベントとタイアップした限定版地酒(ラベルのみで可)を販売促進し、成功事例の順次拡大を図る。また、量的拡大のためには、GI 滋賀の単価はやや高いように思う。通常の地酒並みの価格実現のためにも、種々のイベント連携の普及活動が必要だと思います。